なくそテ原発！ 1400人が柏崎で集会パレード

「柏崎刈羽原発の近くで『なくそテ原発』の思いをひとつにして訴えよう」の思いで、県内の市民団体や個人が24日、柏崎に集まりました。また、長野県からも多くの人がバスで駆けつけました。その数、約１４００人、当初の目標を大きく上回りました。

この「なくそテ原発柏崎集会」を準備した実行委員会には、植木史将さんなど上越勢が多数参加し、大きな役割を果たしました。集会には、上越市からもバスや自家用車などで大勢が参加しました。中には、「子どものためにも原発を無くしてほしい」と赤ちゃんをだっこして参加した若い女性もいました。

日本共産党議員団からは地元町内会のイベントがあった平良木議員をのぞく、橋爪、上野議員が参加しました。

集会では、まず実行委員長の植木史将さん(写真上)が挨拶。「何事も原点に帰ることが大事。この運動の原点は福島だ。報道されない福島の現実に目を向け、福島の声に耳を傾けると、被ばくのほかに地域の分断、家族の分断という大問題が浮き上がってくる。また、線量がまだまだ高いにもかかわらず移住の権利がない。小児の甲状腺異常は、政府が放射能の影響ではないとすら言っているが、被ばくの影響は甲状腺だけではないことも認識しなければならない。そして、最も大事なことは福島を忘れないことだ。理由はふたつある、ひとつは二度と繰り返してはならない教訓として、いまひとつは福島の方々が忘れないでくれと言っているからだ」と力強く訴えました。

集会で注目されたのは、反原発、脱原発運動を進めている各団体のリレートークです。

「つなげよう脱原発の輪 上越の会」のメンバー、山岸祐子さんは、「私たちの会は脱原発の一点でつながる個人参加の会。署名を通じて原発の危険に気づいてもらうよう対話を心がけています。謙信公祭の街頭署名ではガクト効果で他県の人の署名がたくさん集まりました。市民活動フェスタでは、フリーマーケット、脱原発クイズなど、原発を知るきっかけづくりになるイベントをやりました」と報告しました。

集団的自衛権、原発などの激動の情勢を学ぶ

日本共産党は23日、上越市で北陸信越ブロック後援会交流集会を開催しました。

集会では、井上さとし参院議員と藤野やすふみ政策委員が今日の激動の情勢について語りました。日本共産党議員団からは橋爪、上野議員が参加しました。

井上参院議員は、「安倍内閣の数々の暴走に国民が怒りを募らせている。特に集団的自衛権行使容認の閣議決定を機に内閣の支持率が激減してきている。悪政の焦点になっている地方では著しい。十勝毎日新聞によると、ＴＰＰ参加で大きな被害が出ると予想されている十勝では、内閣支持率が26%、集団的自衛権行使容認はわずか３%だ。安倍内閣の暴走と闘っているところほど怒りと不安が高まっている」などと述べました。

藤野政策委員は、「9月15日になれば原発ゼロで1年過ごしたことになる。これは私たちが勝ち取った成果だ。鹿児島県知事は、夏には再稼働すると公言していた。全国で運動が広がって、どの県でも粘り強い闘いがすすめられている。富山でも石川でも闘いが広がっている。新しい国民運動の中に未来がある。安倍政権はとにかくひどい。沖縄に行って来たが、辺野古に海上保安庁の巡視船がいくつも並んでいた。威圧的で腹が立つ。訪れた米軍基地の前には、江戸時代の拷問に使ったようなギザギザの鉄板が敷かれている。鉄板と巡視船で沖縄をとりあげようとしている。許せない」と語りました。

日本共産党上越市議員団ニュース

No.４２４　２０１４年８月３１日

連絡先
橋爪　法一　090-5392-1961（吉川区代石）
上野　公悦　090-7260-9407（頸城区中柳町）
平良木哲也　090-1808-6919（上中田）